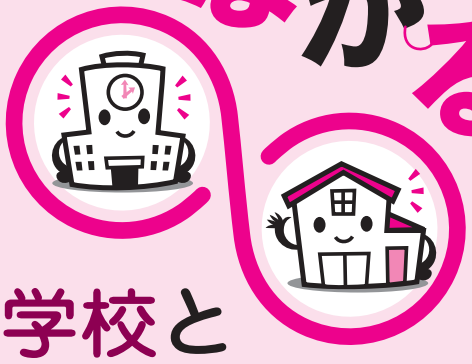
つながる



学校と家庭の学び

地域と絆を強める体験活動で生きる基礎力を育む

山口県美祢（みね）市立秋吉小学校

美祢市立秋吉小学校は、キャリア教育を職業観の育成だけでなく、生きる力全体を伸ばすための取り組みと位置付ける。学校の特色を生かして、家庭や地域と連携したさまざまな活動に1年生から取り組んだ結果、多くの子どもがコミュニケーション能力を高めているという。

子どもと地域の交流を増やし連携を深める

美祢（みね）市立秋吉小学校は、2009年度、文部科学省の「発達段階に応じたキャリア教育支援事業」の研究指定を受けたのをきっかけに、全学年でキャリア教育を行っている。金子明美校長は、小学校のキャリア教育の役割を次のように話す。

「小学校は社会的自立・職業的自立に向け、基盤を形成する重要な時期です。そこで、教育活動全体を通して、発達段階に応じて家庭・地域と連携・協力し、基礎的・汎用的能力を育成するため、活動を工夫しています」

同校は全校児童が50人弱という小規模校であり、子どもたちは学年の枠を超えて仲が良い。ただ、固定された人間関係の中で育つためか、自分の殻を破ることが難しく、また、よく知らない人に対してはうまく意思を疎通できない様子も見られた。そこで、子どもがさまざまな人とかかわれるように、キャリア教育は地域と連携して取り組んでいる。

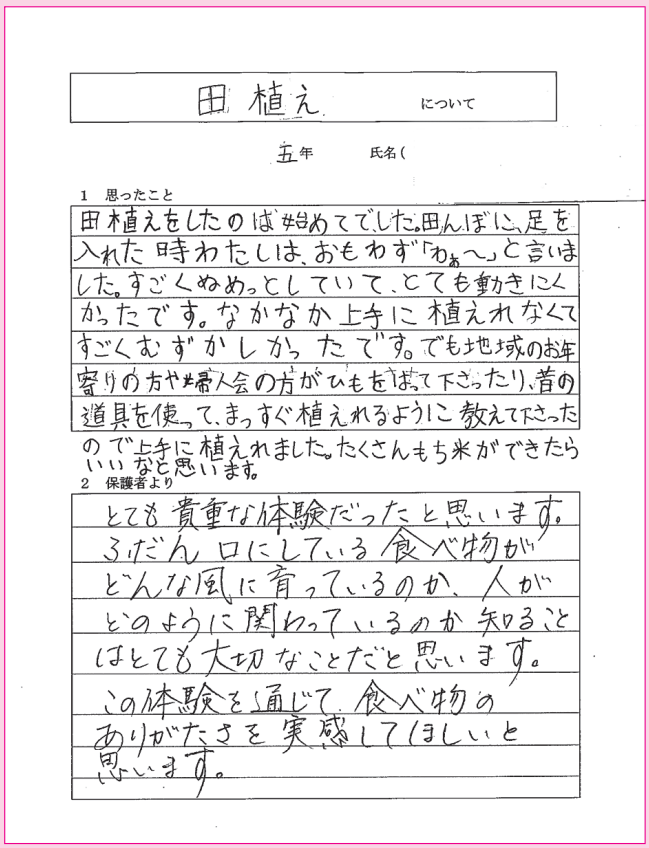
例えば、生活科では食育と関連させて農家の方とじゃがいも掘りや豆取りを体験したり、社会科では警察署について学べば交番へ行ったり、「店で働く人」の学習後にスーパーマーケットに出かけたりと、授業内容に関連させた地域の職場見学を行っている。大野真司（まさし）教頭は、このねらいを次のように話す。

「地域の方が働いている様子を見学したり、実際に体験したりすることによって、子どもは職業についての理解を深められますから、将来への夢やあこがれを持つことにつながると思いました。また、授業と関連のある職場を見学すれば、学習に対する理解が深まるとも考えました」

4～6年生は秋芳町の伝統芸能である和太鼓の演奏活動にも取り組む。「総合的な学習の時間」に地域住民の方から指導者を招き、3学年合同で練習。運動会や学習発表会の他、地域の花火大会や祭りなどでも演奏する。

「一人ひとりが自分勝手に打ち鳴らしていても、美しい演奏にはなりません。全員でリズムをそろえるために、友だちと協力、共同して取り組むことの大切さを伝えたいと思い

図1　三世代交流



田植　について

五年　　氏名（

1　思ったこと

田植えをしたのは始めてでした。田んぼに、足を入れた時わたしは、おもわず「わぁ～」と言いました。すごくぬめっとしていて、とても動きにくかったです。なかなか上手に植えれなくてすごくむずかしかったです。でも地域のお年寄りの方や婦人会の方がひもをはって下さったり、昔の道具を使って、まっすぐ植えれるように教えてくださったので上手に植えれました。たくさんもち米ができたらいいなと思います。

2　保護者より

とても貴重な体験だったと思います。ふだん口にしている食べ物がどんな風に育っているのか、人がどのように関わっているのか知ることはとても大切なことだと思います。この体験を通じて、食べ物のありがたさを実感してほしいと思います。

田植えの様子。保護者にとっても慣れない農作業だが、子どもと一緒に楽しんで苗を植えた。共に汗を流して働く体験は、子どもの勤労観を養う上でも大きな意味があるという

同校のキャリア教育では事後活動を重視し、ほとんどの取り組みで子どもに感想を書かせている。保護者と連携した取り組みでは、保護者にも感想を書いてもらう。子どもの学びや体験の蓄積を「キャリア・アルバム」というポートフォリオ形式のファイルにとじ、小学校から中学校へ引き継いでいる

ました。また、学校行事だけでなく、その何倍もの観衆が集まる場所でも演奏することを通して、自分に自信を持ち、自尊感情を高めてほしいとも考えました」（大野教頭）

保護者と共に取り組むことで子どもの豊かな心を育む

保護者との連携も、キャリア教育で重視していることの1つだ。保護者も参加する活動には、次のようなものがある。

■秋吉フラワーデー

保護者と子ども、教職員が一人暮らしの高齢者を訪問し、学校の花壇で育てた草花に手紙を添えてプレゼントする取り組みで、毎年6月、全校で行う。

「子どもが花を渡すと、どの高齢者も笑顔でお礼を言ってくださいます。子どもたちは自分が役割を果たし、人の役に立ったことを実感することが出来ます。また、当日に向けて計画を立て、草花の準備や手紙を書くことなどに取り組むことも大切な活動です。高齢者とのかかわりを通して、コミュニケーション能力も伸ばせると思います」（金子校長）

保護者に同行してもらうねらいを、大野教頭は次のように話す。

「親子で共通の体験をすることで、感動を分かち合い、家庭での話題が広がると考え、保護者に付き添いをお願いしました。また、保護者と高齢者との触れ合いにもなりますから、各家庭と地域のつながりを深められ

SCHOOL DATA

山口県美祢市立秋吉小学校

◎1874（明治7）年開校。読み聞かせ活動やクラブ活動などで地域ボランティアの協力を得るなど、以前から地域との結び付きが強く、2012年から2年間は、文部科学省の「コミュニティ・スクール推進事業」に指定され、14年からは美祢市の「コミュニティ・スクール」に指定されている。

校長　金子明美先生
児童数　46人
学級数　6学級（うち特別支援学級1）
所在地　〒754-0511
山口県美祢市秋芳町秋吉2388
TEL　0837-62-0012
URL　http://www.c-able.ne.jp/~aki-e/

美祢市立秋吉小学校校長

金子明美
かねこ・あけみ

「子どもにしっかり寄り添いながら、地域と共にある学校づくりを進めたい」

美祢市立秋吉小学校教頭

大野真司
おおの・まさし

「自分の故郷に対して愛情と誇りを持った子どもを育てたい」

ると も思いました」

■三世代交流（P.29図1）

5年生が保護者と一緒に地域の高齢者の指導を受けながら、学習田にもち米を作る取り組みで、6月に田植え、9月に稲刈り、10月に脱穀と、年3回行う。

「本校のある農村地でも、農作業をしたことがない保護者が増えていますから、子どもと共通の農業体験になると思いました。田植えでは、保護者と子どもが共に初めての作業に取り組む中で、互いに声を掛け合いながら、苗を植える姿が見られました。農作業では、指導にあたる高齢者が用意してくださった昔の道具を使うので、先人の知恵にも気付くことが出来ます」（大野教頭）

11月には、ふれあい収穫祭を開き、地域の方と子ども、保護者、教職員が一緒になって、収穫したもち米でもちをついて食べる。

「子どもと保護者の両方から『おいしい』という声が上がります。農作物を育てることのやりがいや大変さを、農作業を通して身をもって知ったからでしょう。三世代交流は、子どもの食べ物を大切にする気持ちを育むことにもつながっていると思います」（大野教頭）

子どもの関心を高め ふるさとへの愛着を深める

キャリア教育の成果の1つは、子どものコミュニケーション能力が高まったことだ。

「さまざまな人とかかわる中で、どうしたらうまく意思を疎通できるか、子どもは工夫しているようです。いろいろな人に自分から元気よくあいさつできるようになるなど、その積み重ねが次第に成果として表れるようになりました」（大野教頭）

和太鼓の練習でも、全体の調和を考えて太鼓のリズムをそろえられるようになったと、大野教頭は話す。

「互いを思いやる気持ちが強くなった結果だと思います。リズムがずれた時は、互いの音を聞きながら調整できるようになりました。大勢の聴衆を前にしても、落ち着いて堂々と和太鼓を演奏できています」

地域に対する子どもの愛着が深まっていることも、大きな成果だ。金子校長は次のように話す。

「クラブ活動では伝統文化、秋吉探検、遊び道具作りの3つを取り上げ、地域の方を指導者として、興味、関心を追究する活動を行っています。また、総合的な学習の時間には秋吉台科学博物館の学芸員の方などを指導者として、秋吉台の動植物の観察や、秋吉台・秋芳洞の成り立ちなどについて学習を進めています。以前はあまり関心を示さない子どもがいましたが、今では熱心に話を聞いたり、メモを取ったりして、ふるさとへの関心が高まってきました」

保護者も、地域の人とかかわることで子どもが変わっていくのを見て、学校の取り組みに対する理解を深め、今まで以上に積極的に参加するようになった。5年生の三世代交流は平日にもかかわらず、保護者の参加率は8割ほどに達する。

同校はこれまで、学校だよりを校区内の全戸に配布し、学校の取り組みを伝えるなど、地域への情報発信に力を入れてきた。金子校長は、これからは地域からの情報収集にも力を入れていきたいと話す。

「地域との絆を更に強められるよう、学校への意見や要望をお聞きしたいと思います。内容や方法についても地域の方を交えて検討し、今後も地域と共にキャリア教育を進めていきたいと考えています」

未来に進むちからを育むプロジェクト。
ベネッセの学び応援

学ぶ意欲を育み、学習法をサポートする 6年生向けの副教材を無料でご提供します

ベネッセは2007年度から「家庭学習に関する冊子」などを先生方やご家庭に無料で提供する「学び応援プロジェクト」を実施しております。2011年度は、のべ約15,000校から約110万冊ものお申し込みをいただきました。

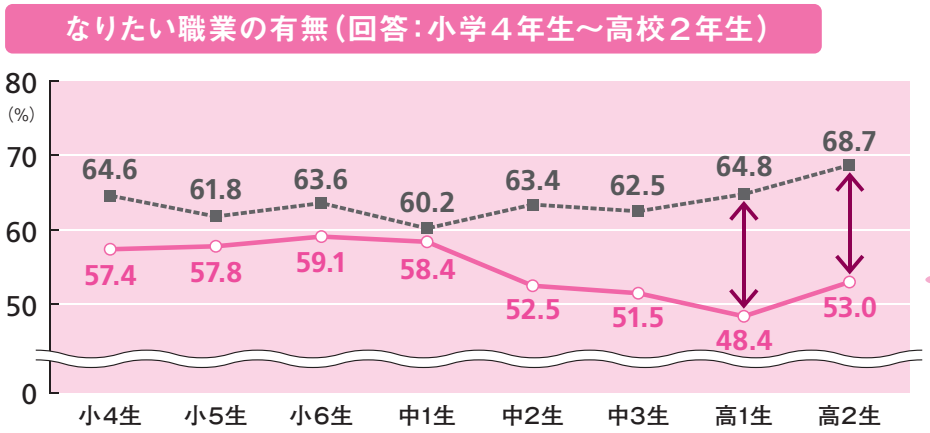
2012年度は、6年生の児童向けに、キャリア教育の授業で自分の将来について考え、中学以降につながる「学ぶ意欲」と「自分でできる自信」を育むサポートをします。ぜひ貴校の教育活動にお役立てください。ただ今、事前予約を受付中です。詳しくはホームページまたは本誌同送のチラシをご覧ください。

学校&家庭 学び応援プロジェクトホームページ http://www.benesse.co.jp/manabiouen/

事前予約締め切り 2012年 12/21 金

なりたい職業がある子どもが減少している

なりたい職業の有無（回答：小学４年生～高校２年生）



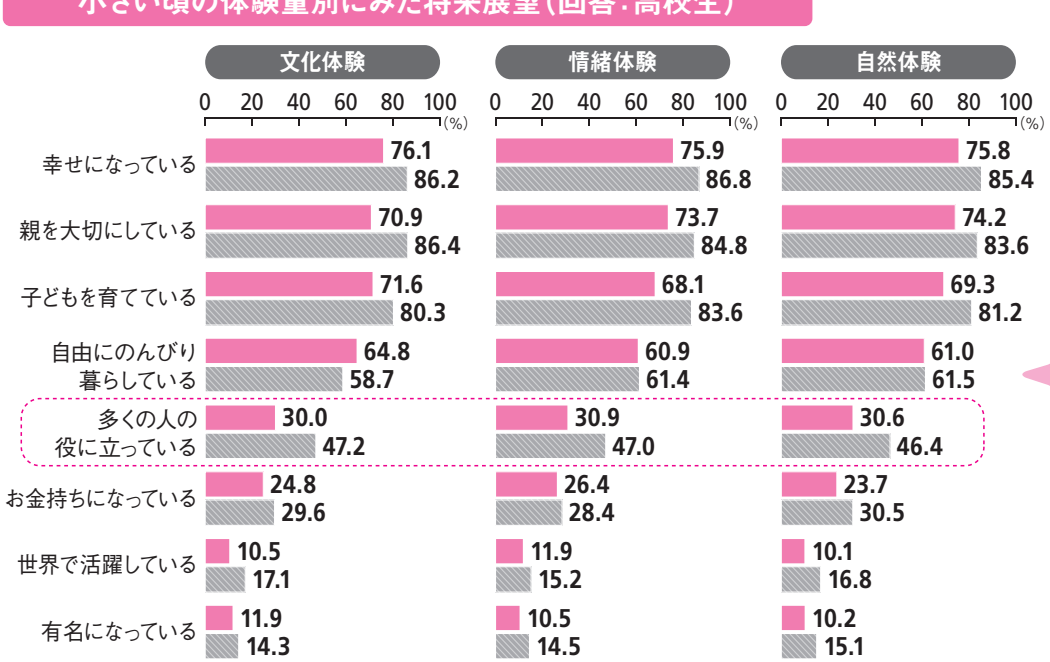
2009年調査では、2004年調査と比較して、なりたい職業がある子どもが減少している。中学2年生から差が広がり始め、高校生で減少幅が大きくなる

注1）なりたい職業が「ある」と回答した割合

出典：Benesse教育研究開発センター「第2回子ども生活実態基本調査」(2010)
調査時期は、第1回（2004年調査）は2004年11月～12月、第2回（2009年調査）は2009年8月～10月、調査対象は、第1回は全国の小学4年生～高校2年生14,841人（小学生4,240人、中学生4,550人、高校生6,051人）、第2回は全国の小学4年生～高校2年生13,797人（小学生3,561人、中学生3,917人、高校生6,319人）、調査方法は学校通しの質問紙による自記式調査

体験が豊かなほど、将来の自分に対するイメージがよくなる

小さい頃の体験量別にみた将来展望（回答：高校生）



「自由にのんびり暮らしている」を除き、小さい頃の体験が豊かであるほど、40歳の頃の自分に対するイメージはよい。体験の有無による差が大きいのは「多くの人の役に立っている」で、体験が豊かなほど、他者との関係性の面で成長できるため、人とのかかわりの中で自分がどうありたいかという展望につながると考えられる

注1）縦軸の「幸せになっている」～「有名になっている」は、40歳くらいになったときの自分の姿を想像して回答したもの。「とてもそう思う」+「まあそう思う」の割合

注2）横軸の体験は、「文化体験」（親に本を読んでもらったこと／親に美術館や博物館に連れて行ってもらったこと）、「情緒体験」（本やテレビで感動して泣いたこと／果物の皮を包丁でむいたこと／赤ちゃんをだっこしたこと／友だちと本気でけんかしたこと／親が働いている姿を見たこと）、「自然体験」（虫をつかまえて遊んだこと／海や山で遊んだこと／のこぎりを使って物を作ったこと／かくれんぼやおにごっこをして遊んだこと）。それぞれ「たくさんあった」と「ときどきあった」の和に基づき、上位3割に入る場合を「体験が多い群」、下位3割に入る場合を「体験が少ない群」とした

出典：Benesse教育研究開発センター「第2回子ども生活実態基本調査」(2010)
調査時期は、2009年8月～10月、調査対象は全国の小学4年生～高校2年生13,797人（小学生3,561人、中学生3,917人、高校生6,319人）、調査方法は学校通しの質問紙による自記式調査

上記の関連データはコチラ！
http://benesse.jp/berd/
＊「調査・研究データ」コーナーをご覧ください